

高齢者スポーツ運営団体設立による高齢者の地域づくり参加

1 はじめに

現在、日本は高齢化社会を迎えている。その一方、人口減少や経済産業基盤の低位化により、地域活力が低下している地域も見受けられている。そういった状況において、高齢者も地域づくりのアクターとして、その持てる能力や経験を生かしながら地域において活躍できる仕組みづくりが必要不可欠である。

現状においても、老人クラブや社会福祉協議会などの活動により高齢者の地域参加が進められているところではあるが、その参加率は高くなく、なかなか多くの高齢者に浸透していない。事実、ひきこもり等により地域に出ていく機会を失っている高齢者もいるのではないかと考えられる。

以上の現状を踏まえ、高齢者がより地域に参加し、地域づくりを支えるアクターとして活躍できるよう以下に提案していく。

2 提案の方向性

最初に述べたとおり、各地域において老人クラブ等の団体が活動しており、高齢者が地域に参加する機会がつくられている。しかしながらその参加率は高いとはいえない。

その原因として、地域において、高齢者の人的交流の機会が多くないことが考えられる。人的交流の機会とは、簡単に言ってしまえば「友達づくり」の機会である。したがって、地域に参加する機会をつくっていくためにも、まずは「友達づくりの場」をつくっていかなければならない。

この高齢者の「友達づくりの場」をつくる手段としてスポーツを取り入れていきたい。

3 高齢者駅伝大会の開催により、友達づくりを促進

高齢者駅伝大会を各県単位で開催することを決定
各地域のマラソン大会に参加している高齢者を選抜し、地域ごと(市町村ごと)において駅伝チームを編成
各駅伝チームにおいて高齢者駅伝大会に向けて合同練習などを行う
高齢者駅伝大会を開催
大会に出場した選手は、翌年度以降は大会運営スタッフとして参加
大会運営スタッフにより団体(NPO等)を設立
地域の企業からCSRというかたちで大会運営団体に資金援助をもらう

以下、～の説明

スポーツといっても様々なものがあり、各地でもイベントが開催されているところではあるが、ここではマラソン・駅伝にスポットを当てたい。例えば、各県ごとにおいて、高齢者による駅伝チームが競う『高齢者駅伝大会』を企画する。

よく、街中を出歩いているとジョギングをしている人を見かけることがあり、その中には高齢者の方々も多数含まれている。こういった方たちは週末になると各地のマラソン大会に参加し、汗を流している。そういった方達をマラソン大会毎に各地区ごとにピックアップし、駅伝チームを編成する。

各チームは各地域において練習を行い、人的交流の形成、すなわち、友達づくりができるような環境を整備する。

各チームは大会に出場し、日ごろの練習の成果を発揮する。

翌年度以降、大会に出場した人たちの中から、運営に携わりたい高齢者は運営を行い、より絆を深める。

大会運営を経験した人たちによって、NPO等を設立し、大会の運営を継続していく。

地元企業等から大会運営組織（NPO等）に対して援助を求め、大会の運営が安定的に続いていくよう、地元企業の支援を受ける（CSR等）。それにより、参画している高齢者も日当等の賃金を得て、参画が長続きする。

5 まとめ

以上のフローにより、高齢者が友達づくりを行うきっかけをつくり、それに加えて、高齢者によるスポーツ大会（今回は、駅伝大会）を企画することで、それに携わる人々がつながりを持ち、後には高齢者の地域における活躍の場を築いていく下地づくりに一役買うことを期待した提案である。